

---

# 風唄

十夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風唄

### 【Nコード】

N6801L

### 【作者名】

十夜

### 【あらすじ】

普通の中学生の男の子と女の子の青春物語。

実は私のクラスであった実録物語だったりします。

主人公は中学三年生。

そこで、クラスにいた一人の少女に目を奪われる。

なにも引けつけれられないものがないような少女なのに

？

## 自覚

窓から風が入ってくる。

カーテンがなびく、  
アイツの髪も唄うように、  
そよぐ。

俺はただの中学生。

いや、これ以外に例えられる言葉がない。

普通に中学校生活を送っている、中学3年生だ。

クラスでは、浮いている方でもなく、中心にいるやつでもない。

どちらかってーと、それらを見て達観してるやつ。

たぶんそんな感じだ。

…ただ、アイツは違う。

「……け、孝介！」

「……ああ？」

「おいおい、人の話聞いてんのかよーっ!？」

「……聞いてねえ」

「……つてめえ……!!!!」

俺が話を聞いていなかったことに、コイツは大激怒している。

……だが、もう少しでとめが入るだろう。

「大輔、そこまでにしろよ?」

ほら、な。

「げーっ、裕一は孝介の味方かよ」

止めに入った方の男子は、狐塚裕一。俺の小さいころからの親友。

もう一人、現在進行形で怒っているのは宮城大輔。中学入ってから  
のダチだ。

「おんなじ話を何回も繰り返しているお前の方が悪い」

「…なに、またアノ話かよ？」

呆れたように、俺は言う。

大輔が言う話は何十回も聞いている。

…俺、もう飽きたんですけどー

「まじで、4組の桜庭さんが可愛いんだって!!」

「あー、ハイハイ」

「孝介冷たっ!!」

「大輔は桜庭さんにお熱だもんなー」

ニヤニヤしながら、大輔に話を振る。

その間も、俺の視線は藤原に行く。

藤原は顔が良いってわけでもなく、特に秀でているものはない女子だ。

ただ、どうしてか俺をひきつけるものがある。

「、そーいえば!孝介って2組のーって人に告られたよなあー」

「ん?ああ...そーいえば、」

「...返事は返したのか?」

「いつも通り。」

「また、か…」

俺の返答に、頭を押さえながら唸る裕一。

いつも通りとは、俺の代わりに裕一を差し出すことだ。

「俺みたいなんかなやつより、裕一の方がもつといい男だぞ？」

つと、一声かけてやる。

…まあ、遠まわしに振ってることになるんだけどさ。

紹介された方の裕一のファンは増える、ってことだ。

「どーんまい」

「お前が言うな、お前が！」

「俺にも紹介しろよ　！！」

「大輔より、裕一の方がいいしなあー…」



「わぁん、ちくしょーっ！！！！」

泣きながら大輔は、自分の席へ戻った。

ちょうどいいタイミングだ。もうすぐ、授業が始まる。俺は裕一と共に自分の席へ着く。

俺の席は窓際から2列目の1番後ろ。裕一は俺のひとつ前。

そして、俺の窓側の隣の席は

「はよ、藤原」

「……」(コクン)(ク)

”藤原静香”

彼女はこのクラスの中で、とても異質な存在だ。

浮いているのだが、クラスメイトに嫌われている様子はない。

ただ、藤原は…とにかく人とつるまない。

3年生が始まってのこの1カ月、誰かと一緒にいるところをあまり見かけない。

基本的に本を読んでいる。

それほど本が好きなのか、とよく思う。

ただ、本を読んでいるのは勉強にも影響しているように見える。

いつか、藤原が国語のテストで満点を取ったことがあったらしい。

これは裕一に聞いた話なので、本当だ。

「（また、本読んでるなー）」

藤原とは、少し話す程度の仲だ。

だがそれでも、このクラスの中では藤原と仲の良い部類に入るだろう。

なぜかというと、

「（基本的に話さないんだよねー、∴人と）」

人と話さない。その理由はたぶん、藤原がいつも持っているものにある。

?本?

藤原の世界のほとんどが本でできているんじゃないかと思うくらい、藤原は本が好きだ。

たぶん、本に集中しているから、人とは話さない。

他の人はそれが理由で、藤原とは話さない。

でも、俺はそんな藤原が

「（好きなんだ

）」

## 自覚（後書き）

主人公の青春物語です。

誤字脱字、文章がおかしいところがあればご報告お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6801/>

---

風唄

2011年10月10日01時02分発行